

## 国際広報強化連絡会議（第1回）議事概要

日 時： 2013年4月26日（金） 15:00－15:20

場 所： 官邸4階大会議室

出席者： 菅内閣官房長官、加藤内閣官房副長官、世耕内閣官房副長官、杉田内閣官房副長官、鈴木外務副大臣、内閣官房副長官補室 黒田審議官、千代内閣広報官、小野内閣副広報官、横井外務報道官、内山知的財産戦略推進事務局長、内閣府 幸田大臣官房審議官、内閣府 武川大臣官房政府広報室長、復興庁 岡本政策統括官、警察庁 坂口長官官房長、金融庁 森総括審議官、総務省 門山大臣官房長、法務省 黒川大臣官房長、財務省 梶川大臣官房参事官、文部科学省 加藤国際統括官、厚生労働省 妹尾総括審議官、農林水産省 今井大臣官房長、経済産業省 立岡大臣官房長、国土交通省 稲葉国際統括官、観光庁 井手長官、環境省 三好大臣官房審議官、防衛省 鎌田大臣官房長、国際協力機構 黒川理事、日本貿易振興機構 横尾副理事長、国際観光振興機構 松山理事長

**【開会の辞】** 主宰者より以下の発言があった。

（菅官房長官）

- ・国際広報強化連絡会議は、今後、国際広報上重要かつ省庁横断的な諸課題に関し、官邸を司令塔として統一的、戦略的に政府一体となって、対外発信を強化していくためのもの。
- ・昨今、世界各国が対外的な働きかけを強化している中であって、対日理解の向上に向けた国際広報の一層の強化は、我が国にとって、国を挙げて取り組むべき極めて重要なテーマ。
- ・安倍内閣の最重要課題である成長戦略の発信をはじめ、東日本大震災からの復興や風評被害対策、6月に横浜で開催されるアフリカ開発会議（TICAD V）などに関する発信は極めて重要。
- ・これらの課題について、「百の言葉よりも1つの結果」を生み出すべく、今後、官邸を司令塔として、政府一体となって、対外発信を強化していきたいので、関係各位のご協力をお願いしたい。

## 1. 国際広報強化連絡会議の開催について

### (1) 本会議の進め方について

資料1に沿って説明があった。(千代内閣広報官)

### (2) 運営要領について

資料2に沿って説明があった。(千代内閣広報官)

## 2. 今後取り上げるべき国際広報の重要課題について

### (1) 今後の課題及び方針について

資料3に沿って説明があった。(千代内閣広報官)

### (2) 今後の課題のうち外交日程関連等について

以下のとおり説明があった。

(横井外務報道官)

・第五回アフリカ開発会議(TICAD V)は、アフリカの元首・首脳級を招待し、欧米・アジア諸国、国際機関や市民社会等も参加する本年最大級の外交イベント。アフリカにおける我が国の技術や人的交流を通じた貢献について発信し、アフリカや国際社会において我が国のプレゼンスを高めるための絶好の機会。すでに多くの広報活動を行っているが、省庁で連携を密にしていきたい。

・2020年オリンピック・パラリンピックの東京招致支援も政府一丸となって取り組んでいくべき喫緊の課題。開催都市決定の投票が行われる9月7日のIOC総会までの間、国際広報の観点からは、東京の好感度アップにつながるよう、さらなる東京及び日本の魅力・強みを集中的に発信していくことが求められている。また同時に、こうした取り組みは東日本大震災に起因する風評被害といった事案にも対応するものである。発信にあたっては、各府省が有しているツールやコンテンツを効果的に連携させ、総動員することが重要なので、省庁間でしっかりと協力していきたい。

・本年は、日・ASEAN友好協力40周年に当たり、12月には東京にて日・ASEAN首脳会議を開催予定。先日、同首脳会議に向けて、アジア文化交流懇談会が開催されたと承知。これまでも官邸主催で局長級、課長級の連絡会議を実施し、政治、経済分野の各省の連携が行われたが、広報についても、本会議をこれらの会議としっかりと連動させ、本会議を通じてサポート体制を整えていきたい。

・国際社会において我が国のプレゼンスを高めていくためにも、主要外交課題と国際広報の取り組みとをしっかりと連動させていくことが重要。

### 3. 意見交換

以下のとおり発言があった。

(井手観光庁長官)

- ・観光庁では、訪日旅行者数を本年1000万人とすることを目標に、ビジットジャパン事業を強力に推進しているところ。
- ・本年1～3月の訪日旅行者数は、前年同期比18%増を記録したが、目標の1000万人を達成するには、4月以降これ以上の伸びが必要な状況。また、将来的には更に高みを目指していく必要もある。
- ・今後のビジットジャパン事業の推進においては、対外的な「日本ブランド」発信の強化が不可欠。今般観光庁では、我が国の普遍的魅力を海外に広くアピールするため、新たなビデオ映像を作成したところであり、各省庁において対外広報の機会に積極的にご活用いただきたい。また、今後は、テレビCMの活用など、新たに効果的な広報手段も検討する必要があると考える。
- ・今後のビジットジャパン事業の推進においては、各省庁との計画的かつ強力な連携がますます重要。

### 4. 結び

以下の挨拶があった。

(鈴木外務副大臣)

- ・本日の本会議の開催により、国際広報の強化に向けた各省庁間の連携体制が整ったことを大変嬉しく思う。
- ・今日、各国が自国のイメージ向上を競い合っており、我が国も対外発信力を強化していくことがますます重要。
- ・本会議でも取り上げたとおり、6月には今回で10年目を迎える第5回アフリカ開発会議、9月にはIOC総会での2020年オリンピック・パラリンピックの開催都市決定、12月には日ASEAN特別首脳会議開催を控えており、精力的に取り組んでいるところ。
- ・着実に外交上の成果につなげていくためにも本会議を通じて、外交課題と国際広報の取り組みをしっかりと連動させ、在外公館を最大限活用しつつ、オールジャパンで対外発信力を強化していけるよう努力していきたい。
- ・引き続き外務省としても本会議の運営に積極的な貢献をしていく所存。今日の議論を具体的な行動につなげるべく、皆様のご協力をお願いしたい。

(加藤副長官)

- ・昨今の近隣諸国の国際的な広報活動の状況も踏まえれば、我が国としても、官邸が司令塔となり国際広報を戦略的に展開していくことが重要。
- ・このような認識の下、25年度予算案において、官邸が中心となって、「米国を中心に、各国における対日理解・好感度を向上させるための経費」として、新規に5億円を一括計上したところ。
- ・この件については、官邸と外務省が中心となって対応していくこととしているが、この「国際広報強化連絡会議」の場を活用することも考えていきたい。
- ・各府省においても、各職員が近隣諸国に関する事実関係などを正しく理解した上で国際的業務にあたってもらえるなど、的確な対応をしていただきたいと思いますので、よろしく願いしたい。

(世耕副長官)

- ・国際的な広報やイベント広報を行うに当たっては、代理店に丸投げする予算消法的な発想は改め、どの国のどの階層の人に発信したいのか、そのためにはどのような手法がいいのかなどを十分突き詰めて行ってほしい。また、その効果を検証することも重要。
- ・既存の広報媒体を活用するのみでなく、最新のITを活用した広報も考えて欲しい。例えば、広報というと新聞広告やイベントなどが従来のやり方だったが、フェイスブックやツイッター等の方が効果的かつ効率的に行う上で重要なツールとなってきており、コストも安い。
- ・この連絡会議を中心に一丸的に、少ない予算、人材、そしてリソースを一元的に使っていくことが重要。戦略的な国際広報を展開していきたい。
- ・今年度、官房長官のリーダーシップで5億円の予算を確保できたが、これは他の国に比べてまだまだ低い状況。国際広報のようなものは、これから増額していってもいいと思う。ぜひそういったものについて戦略的な視点で6月の骨太の方針に盛り込むべきだというふうに思っているので、この（国際広報強化）連絡会議で議論をお願いしたい。

### 【閉会の辞】

閉会にあたり、以下のとおり発言があった。

(千代内閣広報官)

- 政府の国際広報の重要性は日々、増大している。本日の第 1 回国際広報強化連絡会議を契機とし、今後、国際広報をさらに積極的に展開していくこととしたい。
- 具体的な課題を検討するための幹事会、ワーキンググループも、早急に立ち上げたい。
- 今後の予定等については、追ってご連絡したい。

以上